≪大園小 学力向上プラン≫

令和8年度大園小

児童の願い
教師の願い
家庭・地域の願い

現代の課題
学校・地域の特色

【学校教育目標】

「できた！」～未来を描き夢を磨く～

【めざす学校像】
・子どもの良さを見つける学校
・夢を育む学ぶ力をつける学校
・地域との絆を紡ぐ学校
・あいさつや感謝の言葉が当たり前の学校
・子どもも職員も元気な学校

【目指す子ども像】
・課題を見つけ自ら学ぶ子ども
・友達のよさに気づく子ども
・心と体に「たい力」をつける子ども
・きまりを守るこども

【めざす職員像】
・教育者としての使命感と情熱に満ちた教職員
・「社会を生き抜く力」をしっかり育む教職員
・子どもに寄り添い、保護者に寄り添う教職員
・地域に溶け込み、地域を愛する教職員
・「ワーク・ライフバランス」を実践する教職員

【児童の実態】
・明るく，素直な児童が多く，指示されたことやしなければならないことはよく頑張ろうとする。
・不適切な言葉遣いや行動をとり，友達とトラブルになる児童がいる。
・まじめに学習に取り組む児童が多い中，学習への集中が途切れ学習内容が十分定着できていない児童もいる。
・話を聞く力，文を正しく読む力，話の内容を理解する力，相手に分かりやすく伝える力が十分身に付いていない児童がいる。
・落ち着いて学習に取り組むことが困難で，特別な教育的な支援が必要な児童がいる。

【全国・県・市の学力・学習状況調査結果】
【国語】
○3年生・・・市平均よりも低い。
○4年生・・・市平均よりもやや低い。
●5年生・・・県平均よりもやや高い。
●6年生・・・全国平均とほぼ同じ。
【算数】
○3年生・・・市平均よりも低い。
○4年生・・・市平均よりもやや低い。
●5年生・・・県平均よりも高い。
●6年生・・・全国平均よりも低い。

【確かな学力を身につけた子どもの姿】
☆ 学ぶ意欲があり，学習習慣が身についている子ども
☆ 基礎的・基本的な知識や技能を身につけている子ども
☆ 問題に対し，学んだことを活用して解決法を導くなど問題解決力を身につけた子ども
☆ 自分の考えを論理的にまとめ，しっかりと表現できる子ども

共有と協働

【実践内容】

重点目標＝特別支援教育を柱とした授業改善と読書活動の推進
①学年末テスト知・技の観点で三四五六年児童平均85%以上
②児童一人一人の読書量の確保・・・年間利用平均百冊以上

	＜学校＞	＜家庭＞	＜地域＞
基礎基本の徹底	○基礎基本の定着を図る「分かる授業」の実践 ○補充的な学習の充実 ○自主学習など家庭学習課題の工夫 ○キュビナを使った自主的な学習の推奨 ○レディネスとふりかえりによる児童の実態把握	○基本的生活習慣の定着 ○持ち帰りPCでの家庭学習のサポート ○家庭学習の手引きを活用した家庭学習を進める。 ○教育相談体制を整備し，家庭との連携に努める。	
思考力・表現力等の育成	○主体的・対話的で深い学びの場の実現 ○思考を促す課題や発問の工夫 ○体験活動の充実 ○言葉の力をつける指導の工夫 （読み取り指導の工夫，国語辞典の活用，スピーチ等） ○読書活動推進と学校図書館の活用	○家庭学習（宿題・自学・音読練習）の徹底 ○家庭での「家族会話」の促進 ○親子読書の紹介	○豊かな体験の場の提供
学習意欲の向上	○子どもたちにわかる楽しさ，できる喜びを与える授業 ○一人一人の学びの足跡が見える授業 ○高め合い認め合い支え合う授業 ○理解を深めるクロムブック活用・電子黒板活用・プログラミング教育への取組 ○家庭学習課題の工夫（持ち帰りPCの活用等）	○賞賛と励まし ○通信やホームページを通した学習の様子の紹介	○地域の人，もの，ことの教材化 （生活科・総合的な学習での人材活用等）
学習時間の確保	○長期休業中の学習補充 ○週1回の読書時間の設定やすきま時間に本に親しむ確保する ○長期欠席の児童へのオンラインを活用した授業	○家庭学習の習慣化（家庭学習の手引き）	○放課後子ども教室等，学童との連携による学習時間の確保
教師の指導力向上	○授業のUD化（算数科を中心として）について研究・実践を行う ○クロムブックや電子黒板などデジタル機器を活用した授業改善研修	○課題を抱えた児童の保護者への支援・連携	○地域人材の活用
指導体制の充実	○学習困難な児童に対し，学校全体での指導・支援体制の構築 ○少人数指導やTT等の工夫 ○学年による一部教科担任制の実施		○学校関係者評価の充実

【学びを支える素地づくり】

＜学校＞	＜家庭＞	＜地域＞
☆望ましい学級集団づくり（児童間の認め合う雰囲気の醸成） ☆学習規律の確立 ☆学習指導方法の工夫（特別支援教育・ICT教育の研究） ☆教師と児童の好ましい人間関係の構築 ☆教師と保護者との信頼関係の構築	☆基本的な生活習慣づくり ・早寝 早起き 朝ご飯 ☆自立へのサポート ☆読書環境づくり ☆メディア・ゲームのきまり	☆地域行事での社会性育成 ☆地域の方の学校教育への協力 ☆地域の安全確保 ☆育成協等との連携

学力調査の結果を受けた重点的な取組

（国語）
○　長文に読み慣れる、長文を読み解く力の育成。
・読書活動の充実
→　選書指導
「発達段階に応じた本を選び、傍に置き、眺めるのではなく、最後まで読み通しているか。」
○　思いや感想等、「。」３～４個程度で記す場面の設定。
→　国語に限らず、書かれたものを写すのだけではなく、自分で考えたものを文章として記す学習場面を作る。本当の意味での学びの足跡。のちの思考の根拠となる。
「ふりかえり」「アンケートの記述欄」「鑑賞」　等　「書く活動」を意図的に設定
○　「説明文」の授業を大切に。文章との出会いを重要視。
・構成を捉えて、要旨（大体の内容）を把握できているか。
・目的に応じて必要な情報（重要な語や文）を見付けているか。
・内容を理解し、自分の考えをまとめることができたか。

（算数）
○　「自力解決」の場面の充実。
→　既習事項や社会経験等に基づいた根拠をもとに予想を立て、解決を図り、発信交流し、よりよい結論解答に練り上げていく。
・式だけでなく、根拠を記述・発信
「どう思う？」「それは、どうして？」「なぜ？」
○　レディネステスト等を実施し、単元ごとに一回一回丁寧に！！

（その他）
◎　学年ごとの「学力向上プラン」の設定と定期的な検証
・学力テストの結果も参考にして、学年の「弱み」と「強み」を分析。
・具体的かつ継続的な方策を！！
・何もしなければ変わらない。上手くいかなければ、改めればよい。
○　「キュビナ」は、一人当たり週１００問（習熟、隙間時間、家庭学習　等）。
○　宿題　＋　自主学習　→　自学ノート（クロム）、記録表、そして朱書き
・１５分×学年＋１５分の家庭学習の時間の確保。
・「自主学習」に取り組む意欲や力が、これからの学びに必要な資質。
○　学習の成果をはかる評価テスト等へのさらなる真剣な取組。
・返却時は、間違えた問題を再考し、訂正満点で持ち帰り。（自力解決）
・一人一人目標値の設定と変容の把握。「自分は何を頑張ればいいのか。」
○　研究授業・協議等、校内研究を通した授業改善、教師の資質向上
・各々の仮説に基づき授業を開き合いし、さらに学力向上を図っていくスタンスで。

「基礎」から「活用」へ：大園小学校 学力向上アクションプラン

令和8年度学力調査結果を踏まえ、基礎を活かし「活用力」を伸ばす指導・学習方針

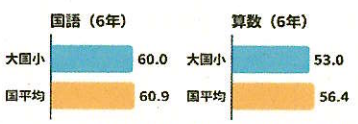




現状の分析と目標

「基礎」は戦える！しかし「活用」に課題あり

先生方の指導により基礎は定着。
今後は思考の根拠を説明する「活用力」の育成が急務。



令和8年度 全国学力調査（6年生）における比較

目指す姿：自分の考えを文章や言葉で発信できる子



書かれたものを写すだけでなく、自ら考えた根拠を「。3~4個」で記述する力を養う。

学力向上のための具体的アクション

授業改善：国語の「書く活動」と算数の「自力解決」

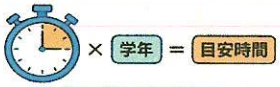


国語：長文読解と要旨把握



算数：根拠の記述・発信を重視

家庭学習の基準：15分 × 学年 ＋ 15分



4年生なら75分を目安



自主学習ノート　Qubena（週100問）

PDCA：学年ごとの向上プランと振り返り



テスト返却時は「訂正満点」で持ち帰り、一人ひとりが目標値に対する変容を把握する。

Gemini Notebook

大園小学校　学びスタンダード

主体的・対話的で深い学びの実現

（「主体的な学び」の視点）

- ○　児童の学習課題の把握や解決への見通し
- ○　動機付けや方向性の提示の工夫
- ○　振り返りの場面の設定
- ○　表現活動の促し

（「対話的な学び」の視点）

- ○　グループ（子ども同士、教師）における話合い・活動内容の充実
- ○　自分自身との対話（記録、感想、ノート　等）
- ○　実社会の人々からの聞き取り、フィールドワーク
- ○　ICT の効果的な活用

（「深い学び」の視点）

- ○　追究の視点の明確化と課題の設定
- ○　資料等を基にした考察
- ○　課題解決に向けた選択・判断
- ○　論理的な説明、議論

単元など内容や時間のまとまりを見通した**「めあて」を設定**し、**「見方・考え方」を働かせる**ことで、事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を**考察したり**、課題を把握してその解決に向けて**構想したり**する授業

そこで日々の授業の中で

- ○　発言を引き出し、**子どもが語り合う場面**を増やしましょう。
- ○　気付き、考え、感想・・・**ノートやワークシート、クロームブック等に記述**させ、今後の学習に生かせるようにしましょう。
- ○　**教師の話をできるだけ減らし**、子ども自身がしっかり学びと向き合う時間を確保しましょう。
- ○　１５の春（中学卒業時）に希望が叶うように、**「気付くまで」「できるまで」「わかるまで」の学習指導を徹底**していきましょう

授業の流れ

自学（家庭学習）、既習事項、社会での実体験

レディネス

授　業

① 学習課題の把握と解決に向けた見通し （めあて）

※ *四人発表*

1．前時のめあて　2．前時のまとめ

3．前時のふりかえり　4．本時のめあて（学習計画）

児童の言葉から

② 課題解決のための追究 （学習活動）

- 言語活動
- 観察・実験
- 問題解決学習　　等

○グループなどで対話する場面
○児童が考える場面
○教師が教える場面
→教師の組立て

③ 学習評価の充実 （まとめ）→基礎的・基本的技能の確実な習得

言語活動を設定

④ 学習の成果を自己分析する（ふりかえり）

◎ 生きて働く「知識・技能」の習得
◎ 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
◎ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養

大園小学校　１年生　学力向上プラン

算　数

傾向と実態	○長い時間集中力が続かない。 ・話を最後まで聞くことができない。根気強さに欠ける。繰り返しの作業を好まない。 ○学力は全体的に低く、上位の児童が少ない。 ・１０までのたし算ひき算ができない児童がいる。（数の概念が身に付いていない。） ○丁寧さに欠ける。 ・文字の形が整わない。文字を丁寧に書こうという気持ちが足りない。
取り組むべき課題	①話を最後まで聞く力を育てる。 ②数の概念を理解させる。 ③問題の意味を理解させる。 ④根気強く、最後まで丁寧に取り組む姿勢を身に付けさせる。
課題の解決策	＜授業＞ ① 「ぐう・ぺた・ぴん」の合言葉を意識しながら、姿勢を保つことができるようにする。 １単位時間の授業の中で、「聞く活動」だけが長く続かないよう、「書く活動」「話す活動」などをバランスよく仕組む。 ② 新しい単元の前にはレディネステストを実施し、実態を掴んだ上で授業を行う。 算数科の問題については、具体物を使って問題を提示することによって視覚情報を与える。 操作活動を繰り返し行うことで、数の概念を養う。 ③ 分かっていること、尋ねていること、単位等、問題文の中で大切な部分に線を引くなどの活動を定着させる。 ④ 担任が丁寧な手本を示す。丁寧に取り組んだ児童を称賛する。書画カメラなどを使って、様子を知らせる。 各授業の中で、「ふりかえり」の時間を多くとり、児童ががんばったことを称賛するなど、次への意欲が持続できるようにする。 ＜家庭学習・自主学習＞ ・毎日、算数の宿題をプリント等で出し、基礎・基本の定着を図る。 ・毎日、計算カードの宿題を出し、基礎的な計算の答えを覚えるくらい取り組ませる。 ・毎日、音読の宿題を出し、文章を読むことに慣れさせる。 ・毎週水曜日にキュビナの宿題を出し、自主的に取り組ませる。
目指す児童の姿	・学習習慣が身に付いている子ども ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている子ども ＜知識及び技能＞９５点　　＜思考力、判断力、表現力等＞８５点

大園小学校　２年生　学力向上プラン

算　数

傾向と実態	・基本的な計算は好む傾向にあるが、文章問題の読解に苦手さを感じている児童が多い。 ・学力が極端に低い児童がおり、個別指導を要する。 ・全体的に授業への集中力や根気強さに欠けるところがある。 ・ノートやプリントなど丁寧さに欠ける児童がいる。
取り組むべき課題	① 基礎・基本の定着をはかる。 ② 文章問題読解のための読解力の向上をはかる。 ③ 主体的に学習に参加できるようにする。 ④ 最後まで根気強く取り組む姿勢を身につける。
課題の解決策	＜授　　業＞ ① 新しい単元の前にはレディネステストを実施し、実態を把握してから授業を行う。 ② 文章題を解く際は、分かっていること、尋ねていることなど解決への見通しをつけてから取り組むようにする。 ③ 授業内容を定着させるために、練習問題に取り組む時間を十分に確保する。 ④ 振り返りの時間をとり、学びを自分の中で整理し、自分の成長や課題を確かめる時間を確保する。 ⑤ １単位時間の授業の中で、「聞く活動」「考える活動」「書く活動」「話す活動」などをバランスよく仕組む。 ＜家庭学習・自主学習＞ ・毎日、算数の宿題をプリント等で出し、基礎・基本の定着を図る。 ・週１回、キュビナの宿題を出す。（毎週水曜日） ・週２回、マス計算（たし算・ひき算・かけ算）のプリントを課題に出す。（毎週火、金曜日、４９マス、６４マス、１００マスの中から児童が選択して取り組む） ・かけ算を学習する時間になったら、毎日、かけ算計算カードを行い、学年末までに全員が唱えられるようにする。
目指す児童の姿	・基礎的基本的な計算の力を身に付けることができる。 ・学習に集中し、主体的に授業に参加することができる。 ・自分が「できた」ことを実感し、喜びを感じることができる。 ＜知識及び技能＞　８５点　　＜思考力、判断力、表現力等＞　８０点

大園小学校　３年生　学力向上プラン

算　数

傾向と実態	・文章問題の読解に苦手さを感じている児童がいる。 ・基礎的な計算の定着が不十分な児童がおり、計算に時間がかかる。 ・全体的には学習に積極的な児童が多いが学習に集中できない児童も数名いる。 ・丁寧さに欠ける児童が多い。
取り組むべき課題	① 基礎・基本の定着をはかる。 ② 文章問題読解のための読解力の向上をはかる。 ③ 主体的に学習に参加できるようにする。 ④ 最後まで根気強く取り組む姿勢を身につける。
課題の解決策	＜授　　業＞ ① レディネスを実施し、授業にいかす。 ② 文章題を解く際は、式に使う数字をまるで囲んだり、尋ねられていることに線を引かせたりして、解決の見通しをつけてから取り組むようにする。 ③ 具体物や図を使って、問題の意味を理解する手立てを増やす。 ④ 授業内容を確実に定着させるために、練習問題に取り組む時間を十分に確保する。 ⑤ 授業中に児童相互の意見を交換できる機会を多く設け、参加できる授業を実施する。 ⑥ できない児童へは声掛けやヒントカードなどで支援する。 ⑦ 最後まで根気強く取り組む児童に対し、励ましの声掛けを継続的に行い、ほめる。 ⑧ ふり返りシートを活用し、「できた」ことを実感させ、次へ意欲につなげる。 ＜家庭学習・自主学習＞ ・算数・国語の宿題を毎日出し、基礎・基本の定着を図る。 ・音読の宿題を毎日出し、文章にふれる機会を確保する。 ・週に１回、キュビナの宿題を出す。
目指す児童の姿	・基礎的基本的な計算の力を身に付けることができる。 ・学習に集中し、主体的に授業に参加することができる。 ・自分が「できた」ことを実感し、喜びを感じることができる。 ＜知識及び技能＞　８５点　　＜思考力、判断力、表現力等＞　８０点

大園小学校４年生学力向上プラン

算　数

傾向と実態

・簡単な計算等は練習を繰り返すことで正答率は上がるが、なぜそうなるのかの計算原理の説明や空欄にあてはまる言葉や数を入れる問題は十分理解できていない。

・かけ算九九が身についていない児童が15名近くいる。そのため、わり算の仕方は理解できても計算が進まない。

・上記の実態から、「算数が好き、楽しい」と感じる児童生徒が減少したり、算数の学習を諦めてしまったりする児童が増えつつある。

・諦めてしまう子どもたちも具体物の操作やテープ図を使うことで、何とか学習に向かう姿勢を維持できている。

取り組むべき課題

①　文章問題読解のための読解力の向上
②　計算力の向上
③　自分で考えたり、書いたりするなど自主的に学習に取り組む態度

課題の解決策

＜授　　業＞

① 具体物の操作、見える化の学習機会を最大限実施する。

② 児童が達成感を味わう毎時間定着・発展問題を行う時間を確保し、習熟の機会を設ける。

③ 前時の定着問題が十分でない場合は次時の初めに再度定着問題を実施（5分程度で早く終わった児童が教えあう）

④ 「教えて学ぶ時間」内容と「じっくり考える」時間を意識して指導計画を立てる。

⑤ 百わり計算を２学期から毎日実施（初め３分）し、集中力計算力を高める。（4年1組）

⑥ 授業内容を確実に定着させるために、練習問題に取り組む時間を十分に確保し、問題が早く終わった児童には、キュビナを活用し応用問題に取り組ませる。

＜家庭学習・自主学習＞

・授業から一週間ほど経過した手作りの算数の宿題を毎日実施する。（年間180枚程度）
・百わり計算の残りの問題も毎日必ず行う。（3分間）（1組）
・毎日の宿題を習慣化する。（やり直しまで確実に終わらせる）

目指す児童の姿

D　めざす子どもの姿

○教師が「教える」場面では、しっかりと話を聞き、理解が不十分のときは質問できる学級・児童。「じっくり考える」場面では、自分の考えをもち、言葉、数、式、図を用いて自分の考えを書き表す児童。

○定着問題を行う場合、お互いに教えあるい、相互の理解を深める。（教える児童もよいアドバイスをすることで力がつく）

○学年が上がっても継続できる学び方や学習技能を身に付ける児童。

○活用する力をつける。（身に付けた知識・技能をもとに自ら考える児童）

○＜知識及び技能＞　　９０点　　＜思考力、判断力、表現力等＞　８５点

大園小学校　５年　学力向上プラン

算　数

傾向と実態	・学力は中程度の児童が多く、低位の子も見られる。 ・文章題など思考力を問われる問題に苦手さを感じている児童が多い。 ・学習の準備ができていない、気持ちが学習に向かえない児童がいる。
取り組むべき課題	・底上げのため、基礎・基本の定着をはかる。 ・文章問題の意図が分かるように、文章を読む力をつける。 ・学習に向かえない児童が参加できるよう、学習環境（場所・物・気持ち）を整える。
課題の解決策	＜授　　業＞ ・新しい単元の前にレディネステストを行い、児童の既習状況を把握しておく。その結果から習熟度のクラスに分け、個に応じた指導ができるようにする。 ・文章題を解く際は、分かっていることや聞かれていることに線を引かせる。また、図や言葉などを使って自分の考えをノートに書くことを習慣化させる。 ・練習問題に取り組んだ児童からキュビナやプリントに取り組み、自分に適した課題を選択し、基礎・基本の定着をはかる。 ・算数的な活動を取り入れられる時間は取り入れ、授業への参加意欲を高める。 ＜家庭学習・自主学習＞ ・毎日、算数の宿題を出し、基礎・基本の定着を図る。 ・毎日の宿題を習慣化する。 ・自主学習を例示し、徐々に取り組めるようにしていく。 ・週に１・２回キュビナで宿題を出す。
目指す児童の姿	・分かった、できたと実感し、喜ぶ姿。 ・学習に向かうのが難しい児童も授業に参加している。 ＜知識及び技能＞　８３　　＜思考力、判断力、表現力等＞　８０

大園小学校　６年生　学力向上プラン

算　数

傾向と実態	・全体的に学力が低く、自信がない子が多いため、授業中発表する児童が決まっている。 ・問題文を正しく読み取ることができない。 ・話を聞く力が弱い。 ・基礎学力が低く、既習事項を使った自力解決が難しい児童がいる。
取り組むべき課題	① 基礎・基本の定着 ② 話を聞く力、文を正しく読む力を身につける。 ③ 自分の考えを図・表・数直線などで表し、説明できるようになる。 ④ 途中であきらめずに、粘り強く取り組む姿勢を身につける。
課題の解決策	＜授　　業＞ ① めあての設定後に、目当ての達成度を測るルーブリック（SABCの４段階）を提示し、SやAを目指して学習に取り組む。そして、まとめの後にルーブリックで自己評価し、振り返りを行う。 ② 問題文は声を出して読み、大事な箇所に線を引いたり、印を付けたりすることを習慣化させる。 ③ ペア学習やグループ学習で、図や表、数直線などを使って自分の考えを伝えたり、わからない子に教えたりすることで、「みんながわかる」を目指す経験を積ませる。 ④ 授業の終末には教科書問題やプリント、キュビナ等の練習問題に取り組む。 ＜家庭学習・自主学習＞ ・毎日、算数の宿題をプリント等で出し、基礎・基本の定着を図る。 ・毎日、音読の宿題を出し、文章を読むことに慣れさせる。 ・自主学習にも取り組むようにさせる。
目指す児童の姿	・「わかった」「できた」を実感している。 ・自信をもって自分の考えを書いたり説明できたりする。 ・振り返りで自己学習調整力を身に付けている。 ＜知識及び技能 90＞　　＜思考力、判断力、表現力等 90＞